

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣先機関等利用マニュアル

2012年4月29日

派遣者氏名（専門分野）	太田晋介（フランス文学専攻）
-------------	----------------

派遣期間	2012年3月6日 ～ 2012年3月21日
------	------------------------

派遣研究機関

国	都市	訪問機関
フランス	パリ リヨン	フランス国立図書館フランソワ・ミッテラン館、リシュリュール館 リヨン高等師範学校、リヨン第3大学（ジャン・ムーラン大学）

利用マニュアル（利用申請に必要な書類、手続き、リサーチ方法を記入）

フランス国立図書館利用の手引き

①事前の手続き

博士後期課程の学生の場合、大学の公式の印を付した指導教員の推薦状と在学証明書、さらに所定の登録料が必要になる。加えて、簡便な書誌を付した研究計画書を用意しておくことよ。

以下のサイトから利用者登録の面接の予約した上で、専用カウンターにおいて面接に臨む。面接自体は本人の身元確認と図書館の使用の簡易オリエンテーションのようなものであった。

②図書館利用に際して

上記の手続きを踏むことで、研究者用1階を利用できるが、研究階は全席予約制なので、館内の端末やBNホームページでアカウントを作成し席と利用する資料を予約しておく必要がある。また研究階はフロントに荷物を預ける必要があること、及び一時退出するにあたっては専用の端末に一時退出を登録する必要があることを覚えておくことよ。研究階の各席には有線LANが備わっておりインターネットを無料で使用できる。加えて、申請者は貴重図書室を利用したが、パソコンと筆記用具の持ち込みのみが許された。貴重資料の転写などの作業を行う場合には、事前にノートパソコンを購入し持参すると有用である。

③リシュリュール分館の利用に際して

利用の手引き派遣者はリシュリュール分館で20世紀作家フランシス・ポンジュの草稿のマイクロフィルムを参照した。リシュリュール分館を利用する際は、上述したように事前に研究者として登録しておく必要がある。館内の各階の利用に際しては、係員に当日入館許可証を申請し、最終的に退出するまで各部屋へ入退出する場合提示する必要がある。参照する資料により対応する担当の職員が異なるので、目的の資料に合わせて適切な担当課の職員とコンタクトを取る必要がある。

作家の自筆原稿のマイクロフィルムデータを閲覧する場合は、用紙に書誌情報などを記載した上で係の人に提示し、案内された席で運ばれてくるのを待つ。申請すればマイクロフィルムデータは印刷や、データの複製が可能。ただし、著作権法などの問題が関わり、可能な複写枚数や完全な複製の制作の可否などは利用資料によって異なる。複製の可否などの問い合わせ自体も時間がかかるので、資料の複写を予定している場合、以下のアドレスから担当者に事前に問い合わせしておくことよ（manuscripts@bnf.fr）。

フランスの国際学会に参加して

日本で開催される学会とは異なった点として、以下のことが挙げられる。

紙媒体の資料が用意されず口頭のみで発表が行われた。テープレコーダーやノートパソコンに発表を記録する参加者も見受けられた。更に、発表に併せて活発な議論が行われた結果、2日間とも学会の閉会時刻が当初の予定よりも大幅に遅延した。フランスの学会に参加する場合、開催期間の周辺日は、TGVの列車やホテルのチェックインなどの予約の時刻には余裕を持たせておいたほうが良いと思われる。